

(別添)

令和6年度 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名： 胆道がんに対する新たな精密治療の開発

研究開発代表者名： 齋藤 義正(慶應義塾大学)

- 日本、オーストラリアおよびタイの研究グループが、密接に連携し協力体制を構築しつつ研究開発を推進した結果、世界の胆道がん研究者と関係を構築し、国際共同研究の基盤を構築した点は評価される。
- 難度の高い胆道がんオルガノイド作成法の開発に成功したことは、大きな進捗であり高く評価される。この成果は、創薬開発における新たな治療薬候補の評価や、胆道がんの発生メカニズムや悪性化の分子機構の解明に資することが期待される。
- 胆道がんの治療薬に繋がり得るリード化合物を取得できた点も評価される。
- 一方、精密治療に向けた取り組みを進める上で、リード化合物の改変や薬効試験の実施を含めた薬剤開発の具体的な道筋を示すこと、バイオマーカーの探索を拡充することなどが今後の課題である。
- 国際コンソーシアムに参加し、主要著者として一流の科学誌に総説を報告したことは評価される一方、e-ASIA 参加者の共著となる原著論文の刊行は遅れ気味である。